

先祖供養と御自身の安らぎとご利益を願って御仏を訪ねる十三佛巡りが、桶狭間合戦450年の節目の年に、合戦に関わりある寺院6カ寺によって東海地域ではじめて開かれました。

毎月1日に  
桶狭間十三佛  
をお参りする

# ついでに 朔日参り



**【不動明王】**

冥界に旅立つ覚悟の出来ていない死者にこの世への未練を断ち霊をまどわす悪魔を降伏させます。

**【釈迦如来】**

亡くなって二七日目・第二の関所に登場し、亡くなったすべての衆生を教導くださいます。

**【文殊菩薩】**

知恵の利剣と教典をかざし、無明の闇を切り開きすべての衆生を導いてくださいます。

**【普賢菩薩】**

死者に対し身に付けておかなければならない仏法を教えてください。

**【地藏菩薩】**

五番目の関所に登場し、大「地」のごとく偉大な力を「蔵」しすべての衆生を救済くださいます。

**【弥勒菩薩】**

釈迦の救済にもれたものまですべての衆生を救う使命をおびている菩薩です。

**【薬師如来】**

人が亡くなって四十九日目が七七(しちしち)日、冥界への第七番目の関所です。ここに登場する薬師如来は正式名を薬師瑠璃光如来といい、浄瑠璃世界の教主です。

清涼山  
虚空蔵菩薩  
曹源寺

普照山  
阿弥陀如来  
慈光寺

清涼山  
阿閼如来  
曹源寺

香華山  
大日如来  
高德院

平野山  
勢至菩薩  
聖應寺

正等山  
觀世音菩薩  
円福寺

普照山  
薬師如来  
慈光寺

香華山  
弥勒菩薩  
高德院

瑞雲山  
地藏菩薩  
照栄寺

平野山  
普賢菩薩  
聖應寺

平野山  
文殊菩薩  
聖應寺

清涼山  
釈迦如来  
曹源寺

香華山  
不動明王  
高德院

**【観世音菩薩】**

百か日に登場し、仏身、女身、童身など三十三身にお姿を変え衆生をお救いくださいます。

**【勢至菩薩】**

一周忌に登場し知恵の光をもってあまねく一切を照らし、三途の苦を離れて無上力を得せしむ菩薩といわれます。

**【阿弥陀如来】**

仏教で西は到達すべき目標、完成された理想の世界、極楽を意味し、そこで迎えてくださるのが阿弥陀さまです。

**【阿閼如来】**

極楽にたどり着いた後、さらに素晴らしい命として復活するお導きをしてくださいます。

**【大日如来】**

この仏さまは日輪の光のごとく偉大で、しかもその知恵の光明はあまねく照らすこと日輪以上であるといわれます。

**【虚空蔵菩薩】**

人が亡くなってまる三十二年が経過したときが三十三回忌で十三佛巡礼の結願。ここに登場するのが虚空蔵菩薩で人間のあらゆる望みや願いを満たしてくださいます。

## 桶狭間十三佛巡りについて

桶狭間十三佛巡りは、豊明市商工会全国展開事業として桶狭間合戦から450年の節目の年に、合戦に関わりある寺院6カ寺によって開かれたものです。

十三佛巡りは、鎌倉から室町時代のはじめに始まり、日本人に広く信仰されてきました。仏典によれば、私たちの魂は死後四十九日の間、中陰という世界を旅するのですが、この中陰という世界は、次に生まれ変わるまでの死んだのでもなければ、生まれ変わったのでもない中途半端な世界で、未だ自分の生まれ変わる先が決まっていない時期なのです。

そしてここでは七日ごとに裁判を受けなければならず、その裁判によって来世の行くべき先が判定されるのですが、そこに登場するのが十三佛で、十三の仏さまは亡者の霊を救ってくださると信じられています。

亡くなって四十九日目を七七日(しちしちにち)・中陰明け＝満中陰といひます。満中陰とは現世と来世の真ん中、中途半端な世界が終わりいよいよ輪廻転生の先が決まるときで、転生先が再び人間界へと決まった魂は、百か日、一周忌、三回忌を厳修することによって阿弥陀様の光が射す極楽浄土へとたどり着くのです。極楽浄土へ導かれたあとも更にすばらしい命としての復活をお導きいただくために七回忌、十三回忌、三十三回忌にそれぞれのご本尊に礼拝します。

このように十三佛の仏さまは現世、来世にわたり私たちを常にお守りくださいます。